

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」のキーワードのもと、社会で通用する基礎学力を確立し、生きる力を高めようとする姿勢を育む。

- 1 挨拶励行・時間を大切にする・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
- 2 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者が安心と感じる学校になる。
- 3 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
- 4 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように思考力、判断力、表現力を育成する。
- 5 個々の教育的ニーズに応じた支援を実現していき、すべての生徒が他者理解、思いやり、そして自分を大切にする気持ちを持ち、自らの夢や志を持って新しい社会を切り拓く態度を育成する。

2 中期的目標

1 社会で通用する基礎学力の獲得をめざす

- (1) 積極的な学びの姿勢を育みながら、基礎学力の定着を図る。
- (2) 授業形態の工夫、アクティブラーニングの視点からの授業の構築、ICT機器の活用、評価の工夫等を試み、生徒の実態に応じた主体的な学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。
- (3) 多様な進路希望を実現できる取組みを確立する。特に大学進学希望者への早い段階での意識づけができるようにガイダンスを充実させる。
- (4) 生徒の進路希望の変化、高大接続システムの変化に対応したカリキュラム改訂やシラバスの更新を進める。

2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成をめざす。

- (1) 平素の生活指導（服装指導・遅刻指導・美化活動）により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
- (2) 他者理解と思いやりを備え、自分を大切にする気持ちを充実させ、自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。
- (3) 職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。
- (4) 生徒会行事や学年行事を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活が送れるよう支援する。
- (5) 部活動の支援を行い、自発的な行動と達成感をもたらし、自信を深めさせる。また学校の活性化を促進する。
- (6) 保護者に密な連絡を取り、情報を共有できる環境と信頼関係を構築する。

3 地域連携と機能的な校内体制の整備、さらに「中学生が行きたい学校」となる。

- (1) 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。
- (2) 出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。
- (3) 生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。
- (4) ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、「中学生が行きたい学校」となる。
- (5) 図書室を授業や研修で活用しながら、本に触れる機会を設け、知的好奇心を増進させる。
- (6) 教員の人材育成とともに、適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|--|------------|
| 【学習指導等】 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 【生徒指導等】 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 【学校運営】 <input type="radio"/> | 第1回 (/) |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|----------------------------------|--|---|---|------|
| 1 社会で通用する基礎学力の確立 | <p>(1)積極的な学びの姿勢を育みながら、基礎学力の定着を図る。まずは主要3教科での強化を図る。</p> <p>(2)授業形態の工夫、アクティブラーニングの視点からの授業の構築、ICT機器の活用、評価の工夫等を試み、生徒の実態に応じた主体的な学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。</p> <p>(3)大学進学希望者への充実を図るため、早い段階で意識づけができるようガイダンスを充実させるなど、進学希望が実現できる学力保障、進路指導の取組みを強化する。</p> <p>(4)生徒の進路希望の変化、高大接続システムの変化に対応したカリキュラム改訂やシラバスの更新を進める。</p> | <p>(1) ア・1年生において基礎学力定着に注力する。 ・1年数学：習熟度別2クラス3展開 1年英語(英会話)：1クラス2展開の少人数 ・1年国語(国語総合)：1クラス2展開の少人数 イ・教育産業の実力テストを実施</p> <p>(2) ア・年2回の生徒による授業アンケートの実施。 イ・授業見学を年間通じて実施。</p> <p>ウ・退学者数、転学者数の減少 エ・生徒の主体的な学びについての研修 オ・1年生の普通教室にプロジェクターを設置し、設備を整えAL的な視点からの授業を研究し、実施授業を多く展開する。 カ・2, 3年生では移動型の電子黒板機能付モニタを活用し、多様性をもって活用する。</p> <p>(3) ア・実践的キャリア教育・職業教育支援事業の活用。(継続ならば) イ・オープンキャンパス参加を増加、意欲を高める。</p> <p>(4) ア・カリキュラムの変更</p> | <p>(1) ア・少人数アンケート結果： 数学 肯定83% → 英会話 肯定56% → 国語総合(新) 肯定 →65% イ・教育産業の実力テスト結果向上 1年2回のテストで2回目に成績下位層の減少(Dゾーン減少)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断 (H27わかりやすい 肯定63%→70%) イ・校長1, 2学期に1回ずつ実施 「授業改善チーム」による研究授業を年間3回 ウ・中退者数の減少6名→3名 エ・研修を2回 オ・教員の5割がAL的授業を実施、 カ・モニタを用いたHR企画数 キ・課題提出BOX設置</p> <p>(3) イ・進学希望者オープンキャンパス参加率 2年生で90%</p> <p>(4) ア・カリキュラムの変更</p> | |
| 2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成 | <p>(1)平素の生活指導(服装指導・遅刻指導・美化活動)により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。</p> <p>(2)他者理解と思いやりを備え、自分を大切にできる気持ちを充実させ、自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。</p> <p>(3)職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。</p> <p>(4)生徒会行事や学年行事を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送れるよう支援する。</p> <p>(5)部活動の支援を行い、自発的な行動と達成感をもたらす、自信を深めさせる。また学校の活性化を促進する。</p> <p>(6)保護者に密な連絡を取り、情報を共有できる環境と信頼関係を構築する。</p> | <p>(1) ア・遅刻数、欠席者数を減らす。 イ・モニタで遅刻統計を伝え、啓発を行う。</p> <p>(2) ア・守口東高校アンケートを実施し、悩み等を早期に聞き取り、寄り添い、前向きな姿勢に導く。</p> <p>(3) ア・1年生からの進路プログラムの充実 イ・国語・数学・英語に主要3教科の基礎学力を充実させる。</p> <p>(4) ア・お互いを認めて励ましあったり支えあえるように機会を提供する。 イ・行事前後にモニタで動画(ダイジェスト)発信を活用する。</p> <p>(5) ア・近隣の中学校を対象に地域大会「守東カップ」を発展させる。 イ・地域との連携による活動</p> <p>(6) オ・PTA活動を活発化して、保護者の教育への関心を促し、ともに生徒の成長を支援する。 ・寄り添い姿勢を備えた保護者対応。</p> | <p>(1) ア・生徒遅刻回数の減少 大・小遅刻5685回→5000回 ・年間皆勤者数の増加 1年63,2年64,3年67 → 1年70,2年60,3年70 イ・遅刻啓発のモニタ掲載年間8回</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断 「生命を大切にできる心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」の増加 H28 73% →80% 守口東高校安心アンケート安心度 H28 1年3.6, 3.4 →3.8, 3.6</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断 進路について肯定を増加 H28 84%→H29 90% イ・教育産業のテスト結果の向上 1.(1)、イと同じ</p> <p>(4) ア・行事後のアンケートによる 学校教育自己診断 70%→75% 体育祭 88% → 90% 文化祭 81% → 85% 修学旅行 97% → 98% イ・上記行事等でモニタ動画発信 3回以上</p> <p>(5) ア・部活動加入率を伸ばす。 5月 45%→55%、 ・表彰数の増加 25団体315名→28団体350 ・競技種目、参加中学校数増加 サッカー部、女子バレー部以外に実施</p> <p>(6) ア・守東メールマガジンの送信回数 45回→60回 イ・学校教育自己診断 「ホームページや携帯メールマガジンで学校の様子がよくわかる」 H28 肯定62.2% →75%</p> | |

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| <p>3 地域連携と校内体制の整備、さらに「行きたい学校」へ</p> | <p>(1)異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。</p> <p>(2)出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。</p> <p>(3)生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。</p> <p>(4)ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、中学生が行きたい学校となる</p> <p>(5)図書室と大教室(会議室)の活性化</p> <p>(6)教員の人材育成と労働安全衛生の充実により学校を活性化</p> | <p>(1) ア・地元中学校との連携 ・支援学校との連携</p> <p>(2) イ・出身中学との緊密な連携により生徒指導の充実 ウ・入学前に中学校や関係機関との連携を図り、寄り添いの指導を進める。</p> <p>(3) ア・全教員による相談機能を強化するために研修実施。</p> <p>(4) ア・HPのタイムリーな更新 イ・「守口東高校メールマガジン」による情報発信 ウ・校内モニタを活用した生徒活動等の情報発信</p> <p>(5) ア・図書室と会議室を整備し、授業での活用と生徒同士の話し合いの場を提供 イ・図書室に有線でLANを設定しAL的授業を展開</p> <p>(6) ア時間外勤務時間を短縮</p> | <p>(1) ア・中学校の教員が本校の授業見学 ・中学校との連携した人権教育プログラムの実施</p> <p>(2) イ・1年生による母校訪問 訪問者数 56校→60校 ウ・入学前中学校訪問数 全校</p> <p>(3) ア・職員研修を2回実施。</p> <p>(4) ア・ホームページの最新情報更新回数の増加 20回→50回 イ・「守口東メールマガジン」の発信発信回数 44回→50回 ウ・校内モニタの更新 静止画 年間50回更新 動画 年間12回更新</p> <p>(5) ア・図書室での授業回数 30回 ・会議室の活用回数 10回 イ・図書室でのICT活用授業実施</p> <p>(6) ア・時間外勤務時間一人平均短縮 一人平均330h→300h</p> | |
|--|--|--|---|--|